

# 津波対策 – 房総半島沖の巨大地震に関する新知見を踏まえた検討 –



ワーキングの詳細  
はこちらから

## 論点No.228

2021年9月に産業技術総合研究所の研究チームが房総半島沖の津波に関する新たな知見を発表したが、東海第二発電所の津波対策に影響はないのか。



第28回ワーキング  
(2024.7.23) で議論

## ワーキングチーム検証結果

新知見で検討されている解析モデルで示されている津波の高さに対し、東海第二発電所の耐津波設計の基準となる津波のほうが大きく上回っており、津波対策に影響がないことを確認

## ワーキングチーム検証結果 (抜粋)

### ○東海第二発電所への影響検討

- 基準津波の最高水位17.1mに対し、産総研(2021)のモデルにおける東海第二発電所の地点での最高水位は約12mであり、東海第二発電所の津波対策に影響はない。

### ○産業技術総合研究所が示した新知見

- 産業技術総合研究所(産総研)が2021年9月2日付の英国のネイチャー・ジオサイエンス誌で論文(産総研(2021))を発表
- 論文によると、研究チームは千葉県九十九里浜地域の地下でこれまでに知られていない津波による堆積物を発見。この堆積物を再現する津波のシミュレーションを実施した結果、過去に房総半島沖でマグニチュード8クラスの地震が発生したことは明らかであるとしている。
- 論文で示されている津波堆積物を再現できる津波の解析モデルのうち、モーメントマグニチュード(地震の規模)が最も大きく、東海第二発電所の地点における水位が最も高いモデル8と、発電所の耐津波設計の基準となる津波(基準津波)の波源の領域と概ね重なるモデル11について、基準津波と比較し、津波対策への影響を検討

東海第二発電所の基準津波と産総研(2021)の解析モデルとの比較

波源	【基準津波】 茨城県沖から房総沖に 想定する津波波源	産総研(2021)の モデル8	産総研(2021)の モデル11
発電所前面における 想定最高水位	17.1m	約12m	約5m
すべり量	6.1m(平均)	25m	10m
モーメントマグニチュード	Mw8.7	Mw8.8	Mw8.7
解析モデル (青枠: 解析モデルの領域)			